

4年生は総合的な学習の時間「北村探検隊」において、校外学習で北村周辺を見学しました。事前学習として、ローズ記念館を訪問し、調べ学習を行いました。

ローズ記念館には、戦前の北村の写真が2枚展示されていました。それらの写真からは、北港から延びる道路の両側に多くの家屋が密集していて、山頂近くまで段々畑が続いていた様子が分かりました。このことから、かなり多くの人々が北村に住み、生活していたことが分かります。

それにもかかわらず、なぜ現在の北村は無人となってしまったのでしょうか。調べてみたところ、戦時中の強制疎開が原因との記述を見付けましたが、子供たちは実感がわかない様子でした。また、現在の母島に匹敵する人口を支える飲料水は、どのようにしていたのでしょうか。

しかし、北村を自分の足で歩き、自分の目で見ることで、今まで分からなかったことが見えてきました。実際に住居跡地に行ってみると、陶器やビンなどの生活用品とともに、雨水を貯めておくための貯水槽のような跡を発見することができました。さらに、道路沿いの小川に、年季の入った竹の筒を発見しました。おそらく戦時中まで使われていた水道管だと思われます。

さらに、脇道を少し入ったところに、慰霊碑がありました。慰霊碑の横には、卒塔婆がありました。そこには、「戦没者」という文字が書いてありました。ご承知の通り、母島の南にある硫黄島は、史上稀にみる激戦地となりました。そのような被害をできるだけ少なくするために、全島民（民間人）を強制疎開させたのではないかとということ、慰霊碑や卒塔婆を見て実感しました。このような総合学習を通して、事実を単なる知識として捉えるのではなく、そこに私たちと同じ人間が暮らし、生きていた証だということ、実感してほしいと思います。

